

# 第1回 NITS 大賞 (平成 29 年度) エントリーシート

新潟県立教育センター 山崎 孝幸

A-7

## 【活動名】 中堅教諭等資質向上研修 (教職 12 年経験者研修) 教育課程コース

解決すべき課題：

校内において中堅教員としての役割を果たすために、課題解決型の研修を通して校内組織を動かすリーダー性の素地を身に付ける。

目的や背景：

教育公務員特例法等の一部を改正する法律が平成 28 年 11 月 28 日に公布された。キャリアステージに応じた教員としての資質の向上に関する指標の整備及びそれを踏まえた教員研修計画の策定等を義務づけるとともに、10 年経験者研修を中堅教諭等資質向上研修に改め、実施時期の弾力化等が図られた。本県の小・中学校では、教員の大量退職、大量採用を迎えている。校内における教員の年齢構成や経験年数の不均衡により、若手教員から中堅教員の世代に学校運営の中核として活躍が求められている。中堅教諭として求められる「学校運営能力」に関する資質能力を養うことや使命感や責任感をもって学校を支えるキーパーソンとしてリーダーシップの発揮が求められる。

活動内容 【ねらい】	【内容】
<p>【1 日目】</p> <p>講義を中心に、教育課程にかかわる専門性の向上を図り、そこから得られたことを基に、研修課題を鮮明にする。</p> <p>カリキュラムマネジメント・モデル図を用いて、現状を把握し、研修課題を明確にし、解決に向けたヒントを探る。</p> 	<p>【1 日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義『教育課程をマネジメントする』(120 分) 講師：新潟大学 雲尾 周 准教授 学校組織マネジメントについて、中堅教諭としての教育課程への関与の在り方について講義を行った。</li> <li>2. 実践発表(90 分) 昨年度の受講者代表 2 名より、どのように課題を設定したのか、推進上の悩みや成果はどうであったかについて実践報告を行い、研修のゴールイメージを確認した。</li> <li>3. 演習『研修課題を明確化する』(50 分) カリキュラムマネジメント・モデル図による分掌業務の分析と研修課題について検討した。 * モデル図作成の意図を分かりやすく解説した資料を作成し、解説を行った。モデル図の記入には、「カリキュラムマネジメント検討用シート」の設問を参考に記入できるようにした。</li> </ol> <p>【2 日目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義『教育課程の編成と運用』(40 分) 講師：県立教育センタースタッフ 学習指導要領に示されている教育課程の編成の方針を確認し、カリキュラム・マネジメントの進め方やリーダーシップの在り方について講義を行った。岐阜大学田村知子准教授の提案する CAP-Do サイクルを生かして、これまでの取組を改善する視点を与えた。</li> <li>2. 演習『分掌業務のアクションシート作成』(80 分) 中教審答申(2016.12.21)の補足資料「学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ」を参考に作成したシートを使って研修課題の解決に向けた取組を整理した。 * 「アクションシート」は、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点を分掌業務においても活用できるように開発したものである。</li> </ol>
<p>【2 日目】</p> <p>学校組織マネジメントの概念知り、リーダーシップの発揮とマネジメントの進め方を理解する。研修課題の解決に向けて、解決へのイメージを整理し、自らの課題解決をアイデア豊かに進めるための取組を探る。</p> <p>職員組織を動かす視点や教育活動その他の活動を改善するための計画を立案できる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協議(50 分) アクションシートを基に具体的な方策や手立ての有効性について協議を行った。</li> <li>4. 演習『研修計画の立案』(50 分) 校内における具体的な推進計画を立案した。</li> </ol>
<p>【3 日目】</p> <p>校内で提案する資料の協議を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 協議(50 分) 指導者から、校内組織をどう動かし、実践に結びつけていけばよいかについて助言を受けながら進めた。</li> </ol>
<p>【4 日目】</p> <p>提案資料を基に実践した内容をグループでプレゼンテーションし、協議を行う。</p>	<p>(3・4 日目は略)</p> 

活動の成果：\* 評価は 4 件法 (はい 4 ~ いいえ 1) n=15

受講者アンケートの結果	新たな知識・技能を得た	今後の実務で活用できる	研修の状況
講義「教育課程の編成と運用」	3.86	3.93	自校の実態、活用イメージ、意欲向上を高めることに役立った。
演習「分掌業務のアクションシート作成」	3.86	3.86	課題解決に向けた現状把握や解決意欲を高めることができた。

カリキュラムマネジメント・モデル図の作成は、15 人中 14 人が課題発見や解決策の検討に役立ったと回答し、分掌業務の取組を点検・分析する上で有効に活用できた。また、各項目は記入しやすいが、項目間のつながりの分析にやや難しさがあった。

個人活動だけでなく、共通のワークシートを活用してグループ協議を行い、様々な意見・提案を得ながら、改善・発展させることができた。

アピールポイント：

カリキュラムマネジメント・モデル図を作成することで、内外リソースや PDCA サイクルなど様々な視点から現状を把握し、研修課題を明確化することに役立てることができた。分掌業務が異なっても共通の視点で分析できる汎用的なよさがあるとともに、多面的・多角的に取組を見つめ直すことに役立った。

指導者養成講座の資料を活用してカリキュラム・マネジメントの意図や進め方、学習指導要領等の教育課程の編成について講義した。教育活動は学校教育目標の実現に向けて、意図的・計画的に取り組むとともに組織としての取り組みが大切であることを伝えることができた。

研修課題の解決を図る「アクションシート」を考案し、実践に向けた戦略と戦術を順序立てて整理するとともに、グループ協議では共通の視点で検討することができた。

